

6

口腔ケアだけではない 間接的嚥下訓練

小林健太郎

東京都立大塚病院 リハビリテーション科

Point

- 1 間接的嚥下訓練には、①他動間接的嚥下訓練と②自動間接的嚥下訓練があります。
- 2 口腔ケアを行うときに、嚥下関連筋のマッサージと、のどのアイスマッサージをしましょう。
- 3 嚥下体操や頭部挙上訓練なども指導していきましょう。

はじめに

脳卒中における摂食嚥下障害の合併率は30～60%といわれています。また、誤嚥性肺炎だけではなく、肺炎の合併率は約25%といわれています。嚥下障害による誤嚥性肺炎は在院日数を長期化させるため、嚥下障害に対する早期対応は、脳卒中診療において必要不可欠です。その必要性が認知されて、現在では医師または歯科医師の指示の下に、言

語聴覚士または看護師などが行う摂食機能療法が算定可能となりました。摂食機能療法は、食物を用いず障害された摂食・嚥下器官へアプローチする「間接的嚥下訓練 (indirect therapy)」と、実際に食物を用いて摂食を行う「直接的嚥下訓練 (direct therapy)」に分けられます。間接的嚥下訓練には嚥下体操やアイスマッサージ、頭部挙上訓練などがあり、

嚥下障害の患者さんに対する最初のアプローチとなります。

この章では間接的嚥下訓練を、医療者側が主導で行う「他動間接的嚥下訓練 (passive indirect therapy)」と、患者さん側が主となって行う「自動間接的嚥下訓練 (active indirect therapy)」に分けて解説していきます。なお、口腔ケアは便宜上、他動間接的嚥下訓練のなかで言及していきます。

他動間接的嚥下訓練

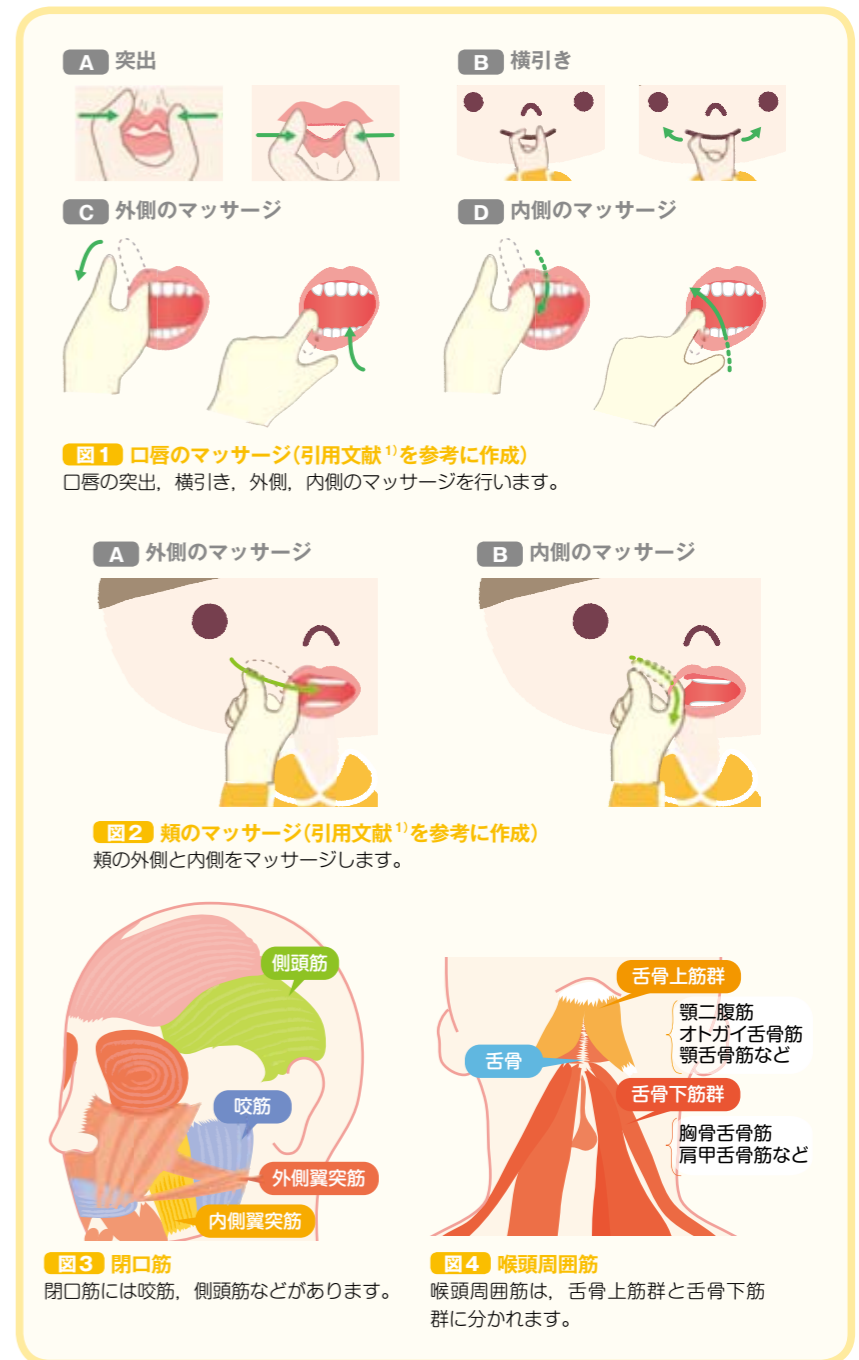
嚥下関連器官のマッサージ

口唇や頬、閉口筋や喉頭周囲筋などの嚥下関連器官に対する廃用予防、感覚賦活を目的としたマッサージを行います。口唇のマッサージは、手指で口唇をつまんで前方へ軽く引き出したり、逆に口角を横に引いたり、口腔前庭に指を入れて口唇を伸ばしたりします(図1)。また、頬のマッサージでも、口腔内に指を入れて頬骨弓から口角に向けて伸ばしていきます(図2)。閉口筋には咬筋、側頭筋、外側翼突筋、内側翼突筋があります(図3)、とくに表面からのアプローチが容易な咬筋や側頭筋を、1～2指先で圧迫しつつ1cm程度の円を描くように揉んでマッサージを行います。喉頭周囲筋には顎二腹筋、オトガイ舌骨筋、顎舌骨筋などの「舌骨上筋群」と、胸骨舌骨筋や肩甲舌骨筋などの「舌骨下筋群」があります(図4)。舌骨上筋群に対しては、下顎から舌骨までをマッサージしていきますが、前頸部の皮膚刺激によって嚥下反射が誘発されるので誤嚥には注意が必要です。また、舌骨喉頭運動の妨げとなる舌骨下筋群に対しては、指腹で舌骨と喉頭を左右にゆっくり動かしていきます。

口腔ケア

口腔ケアの種類

口腔ケアは、本人、家族、看護師など歯科専門職以外が行う「一般的口腔ケア」と、歯科専門職が行う「専門的口腔ケア」に分けられます。「一般



的口腔ケア」では、歯ブラシや歯間ブラシなどの清掃器具を用いるか、含嗽、洗浄などの水や薬品の効果を利用して口腔内の汚れを減らします。「専

門的口腔ケア」ではさらに、一般的口腔ケアでは除去できない歯石や外来性色素の除去とともに、実質的欠損部の充填処置や歯周病治療、抜歯、義歯